

日本のユニークベニユーを創造する

連載・第2回 東京・大阪のユニークベニユーを考える

MICE 誘致のひとつの切り札となるユニークベニユー。はじめて日本をインセンティブツアー先として決定した場合、東京もしくは大阪を開催地として選択するケースが多い。そこで今回は東京と大阪にスポットを当てて森本氏に話を伺った。



森本 福夫 氏 (イベントサービス・代表取締役)

旅行会社で16年間アウトバウンド・インバウンド旅行・イベントの企画、営業などの業務を経て、1981年にイベントサービスを設立。当時は大型インセンティブ旅行でセールスマンを海外に連れて行く時代の黎明期だったが、ただ旅行に招待することから、現地で近い将来必ず表彰式やパーティなどのインセンティブイベントの企画・制作が求められると予測し、インセンティブイベントの制作に特化した会社を立ち上げた。現在は海外でのイベントだけでなく、インバウンドのグループに向けたイベントも多数制作している。

インセンティブのイベントは大都市での開催が多いと聞きました。東京・大阪でのユニークベニユーの現状をお教えてください。

現在、大型のイベントは収容能力の点から、物理的にホテルのバンケットルームやコンベンションセンターでしか開催することができません。TCVB (Tokyo Convention & Visitors Bureau) や OCTB (Osaka Convention & Tourism Bureau) では利用出来るユニークベニユーをそれぞれネットで紹介していますが、インセンティブイベントの主催者が

求めている公的施設のユニークベニユーが未だ少ない点が問題です。東京の場合、紹介されている公的施設は3会場にとどまっています。これから増やして行くことが必要ですね。常に特別感かつユニークさを求める海外の主催者にとって、文化的・歴史的な公的施設を会場として使用できることは、開催国・都市選定上の一つの重要な要素になるでしょう。

ユニークベニユー開発のためには何が必要でしょうか。

まずは前述の Bureau が、主催者やインセンティブツアーを扱っている旅行会社・DMC・イベント会社に十分にヒアリングをし、ニーズを吸い上げく東京・大阪で求められているがまだ開放されていない公的ユニークベニユーをリストアップする事です。そうすることで JNTO、観光庁、行政等とチームを組み、個別に開放に向けた折衝に進む事ができるでしょう。

東京に比べ大阪では数々の公的施設の開放成功事例があります。例えば、ガーデンオリエンタル大阪 (旧大阪市公館)、大

阪城西の丸庭園大阪迎賓館、重要文化財の大阪市中央公会堂などは、運営を民間業者に委託して開放したほか、市の公道である道頓堀沿いの遊歩道・とんぼりリバーウォークの一部も貸し切って屋外パーティをすることができます。またパブリックスペースの大阪城西の丸庭園もユニークベニユーとして開放するための検討が行なわれているなど、新しいユニークベニユーの開発がインバウンド誘致の武器の一つである事をよく認識していることが伺えます。



大阪城西の丸庭園



大阪市中央公会堂



とんぼりリバーウォーク

ではどのような公的施設の開放が求められているのでしょうか。

東京の場合、開放されているのに広く告知されていない例としては国立新美術館があります。お寺の増上寺も利用できます。ユニークベニユー開放の成功事例としては東京国立博物館があり、カクテル・ディナーなどに利用されています。海外の主催者からよく希望が寄せられますが、現在利用不可能で将来開放が望まれるのが皇居東御苑の百人番所前広場、ランチタイムコンサートがよく行なわれる本丸芝地、迎賓館

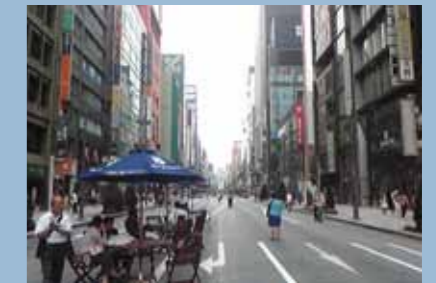
赤坂離宮の庭園、和風別館、銀座・秋葉原の歩行者天国の一部、新宿御苑など都内公園、お台場のビーチなどなどです。これらの開放には相当の時間がかかる事が予想されますが、迎賓館赤坂離宮の一般見学日が従来に比べ大幅に増加したりしていること、空いているスペースの有効活用促進の機運の盛り上がりなどは歓迎出来る流れと言えましょう。



国立新美術館



皇居・百人番所



銀座・歩行者天国

公的施設以外のユニークベニユーではどのような会場がありますか

すでに紹介されているものでは大阪では山本能楽堂、クラシックカーを展示している GLION MUSEUM などがあります。また、2020年までの開館を予定している中之島の新美術館ではイベントスペースも検討されており、市の中心地であるだけに人気の会場になるでしょう。

東京ではインセンティブの実績はまだありませんが、映画撮影に使われることがある証券取引所は会議・表彰式・カクテル・ディナーなどに利用できるユニークな会場です。民間ではユニテッドシネマなど食事ができるユニークベニユーもあります。座

席前にテーブルを臨時設置する事で表彰式やエンターテインメントはもちろん、ランチ・ディナーの会場として使うのもユニークです。空港では羽田国際線旅客ターミナルの屋外展望デッキでカクテルパーティを行なった事例もあります。奇想天外、と思う向きもありますが、NPO 法人江戸城天守閣を再建する会が実際に寛永度天守を再建し、内部に豪華絢爛たる大広間を再現できればユニークベニユーとして引っ張りだこになるでしょう。実現を期待したいですね。



証券取引所



山本能楽堂内でのパーティーのようす



江戸城天守閣 (イメージ図)

ありがとうございました。

次回のテーマ 地方都市の可能性を探る

お詫びと訂正：前号の原稿内に「大阪城の迎賓館が2014年から一般のパーティ会場としての営業を始めた」とありますが、正しくは「2016年から」となります。